

洞爺湖におけるウチダザリガニの防除と効果

UW クリーンレイク洞爺湖 室田 欣弘

1. UW クリーンレイク洞爺湖設立の経緯

UW クリーンレイク洞爺湖の UW とは UnderWater（水中）で北海道洞爺湖の水中環境保全活動団体です。

私達が活動する洞爺湖は北海道の南西部に位置する支笏洞爺国立公園に指定されており、洞爺湖有珠山ジオパークとして「日本ジオパーク」「世界ジオパーク」に登録されている。周囲約 50 km のほぼ円形の湖で中央には大島・観音島・弁天島・饅頭島などの中島があり、活火山の有珠山・昭和新山や洞爺湖温泉など北海道有数の観光地となっています。

洞爺湖におけるウチダザリガニ(*Pacifastacus leniusculus*)は 2005 年 9 月に「2000 年 3 月有珠山噴火の降灰による湖底は？」をテーマにテレビ局の潜水取材の撮影中に偶然にザリガニの群落を発見した。撮影した映像を持ち帰り専門機関に同定の依頼をしたところ、ウチダザリガニで有ることが確認された。その後、環境省が外来生物法に係わる特定外来生物の二次指定対象種であるウチダザリガニの生息が支笏洞爺国立公園内の洞爺湖で新たに確認された為、生息調査を 2005 年 12 月に実施して定着を確認。環境省が調査防除と外来種の普及啓発を実施していた。

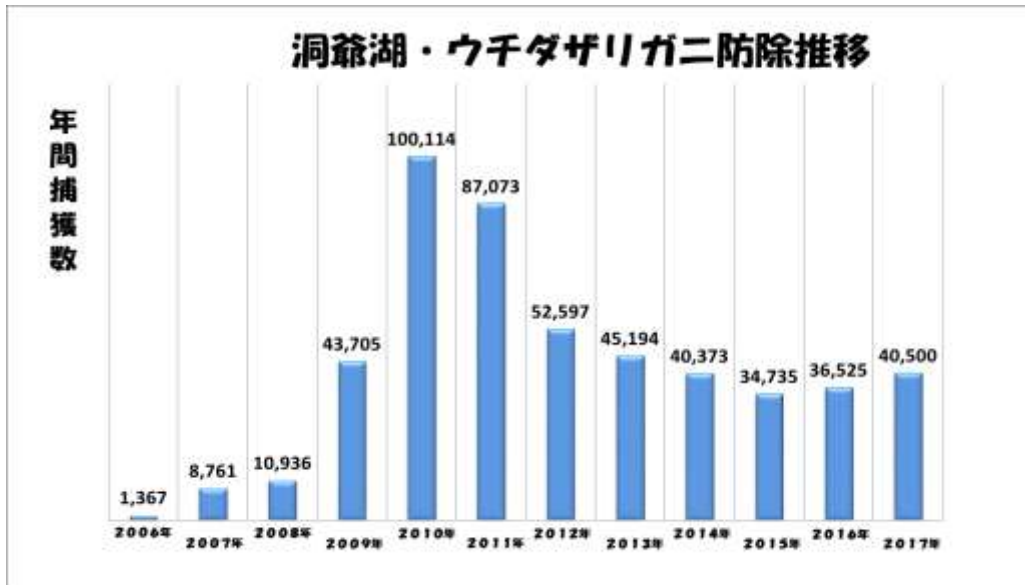
洞爺湖のウチダザリガニ初確認の潜水取材に同行していた筆者が環境省主催の普及啓発イベントに参加する機会があり捕獲数の多さ、在来種であるニホンザリガニに対する捕食やザリガニペストの感染の危険性が非常に高いことなど他の在来生物への影響に大変驚かされた。

また、2008 年 7 月に第 34 回主要国首脳会議「北海道洞爺湖サミット」が洞爺湖で開催されるに事を知り、観光だけでなく環境を考える団体を洞爺湖に設立しても良いのではないかと有志の話し合いがあり水中環境を保全し、「洞爺湖を次世代に残す」ことを目的に市民団体「UW クリーンレイク洞爺湖」を 2008 年 1 月に発足した。

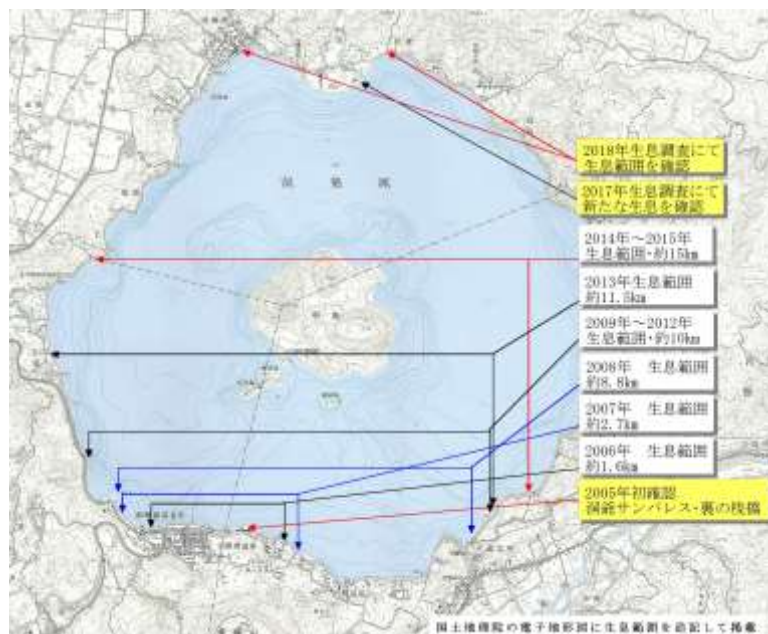
活動当初は環境も外来種も知らない会員が多く手探り状態で環境省の指導を受けながらの活動でした。その後、酪農学園大学の野生動物保護管理学研究室・吉田教授をご紹介頂き、御指導をいただくこととなった。

ウチダザリガニ防除

i) 発足当初から市販の円筒カゴ罟による誘引捕獲、ダイバーによる手捕り捕獲など防除活動を継続して実施してきた。2009年からは洞爺湖町・壮瞥町・関係機関と UW クリーンレイク洞爺湖が構成メンバーである「洞爺湖生物多様性保全協議会」が発足し、ウチダザリガニ捕獲専門員による集中的な捕獲を実施。2010年には国内最多となる年間 100,114 匹(2,003,202 ㍉)の捕獲に成功した。



一方で、毎年実施している洞爺湖全域の生息域分布潜水調査で 2006 年初確認の場所を中心に東西に 1.6 km であったが。2007 年には 2.7 km、2008 年には 8.8 km と東西に方向へ徐々に拡大している。



また、捕獲個体の体サイズのも変化が見られている。特に定点捕獲範囲での体サイズと定点以外の生息域で捕獲される体サイズが明らかに違う。

ii) UW クリーンレイク洞爺湖はダイビングを趣味とする会員が居ることから、潜水手捕り捕獲、湖底環境調査や写真やビデオの撮影など湖底環境や生息環境を発信する事が主な役割である。

iii) 洞爺湖では特定外来生物ウチダザリガニの防除方法を酪農学園大学野生動物保護管理学研究室と発足当初より共同で実施してきた。

春口洋貴、吉田剛司（2009年）洞爺湖における特定外来生物ウチダザリガニの効果的なモニタリング手法と分布拡大防止手法の確立（酪農学園大学卒業論文）

戸崎良美、吉田剛司（2009年）洞爺湖周辺におけるニホンザリガニ（*Cambaroides japonicus*）の生息上に関する基礎情報の整備（酪農学園大学卒業論文）

戸崎良美、室田欣弘、加藤康大、吉田剛司（2012年）洞爺湖における特定外生物ウチダザリガニの実践的防除（酪農学園大学紀要）

谷本 究、室田欣弘、吉田剛司（2015年）洞爺湖における特定外生物ウチダザリガニ捕獲に関する適切なカゴ罟の設置時間の検証（酪農学園大学紀要）

森田政人、吉田剛司（2017年）洞爺湖に生息するウチダザリガニの水中カメラ映像による現状把握（酪農学園大学卒業論文）

兼堀穂奈美、吉田剛司（2017年）洞爺湖における2つの異なる捕獲期間によるウチダザリガニの体サイズ比較（酪農学園大学卒業論文）

更科美帆、上原裕世、谷本究、室田欣弘、吉田剛司（2017年）洞爺湖温泉街における特定外来生物ウチダザリガニの分布と体サイズの動向（第23回「野生生物と社会」学会大会・ポスター発表

など、多くの学生が洞爺湖の生物多様性保全活動に協力して頂いている。

観光地における防除活動の問題点

i) 北海道洞爺湖は年間約300万人以上も観光客が訪れる北海道有数の観光地となっていることから、様々な問題点も出てきている。

カゴ罟の盗難、悪戯や生息域でウチダザリガニを捕獲してキャンプ場や水上バイク乗り場まで移動しての食利用等、人為的攪乱が懸念されている。

ii) これ以上生息域を拡げないために一般市民や観光客に外来種の驚異や防除活動の必要性に理解を深めて頂く為に、捕獲現場の視察会や専門家を招いたシンポジウム開催、啓発ツールの配布などを通して啓発活動に取り組んでいる。

長期継続に必要な啓発活動と体制

2008年から初めたウチダザリガニの防除活動も多くの人の支援で継続できましたが今後の啓発活動と防除体制を強化するためには、多くの支援が必要と思

います。当会と洞爺湖生物多様性保全協議会は活動の成果を発信しながら観察会の開催、環境教育や啓発活動を実施し自然の大切さを多くの人に知って頂き支援と協力を呼びかけていきたいと考えています。